

令和元年度 第1回狭山市環境審議会 会議録

開催日時	令和元年11月21日(木)午後2時00分～午後4時00分
開催場所	狭山市役所6階 603会議室
出席者	立花委員、相澤委員、片田委員、大貫委員、近藤委員、坂本委員、高嶋委員、仲川委員、中村委員、平林委員、廣中委員、安永委員、
欠席者	安田委員、関根委員、三木委員
市出席者	小谷野市長(途中退席)、神田環境経済部次長(途中退席)、立川資源循環推進課長、吉田奥富環境センター所長(稲荷山環境センター所長兼務)遠山みどり公園課長、北田環境課生活衛生担当主幹、高橋環境課環境保全担当主査、稲岡環境課生活衛生担当主事、
事務局	丸井環境課長、山崎同課主査、工藤同課主事、山元同課主事
傍聴者	なし

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 正副会長選出 近藤会長・相澤副会長を選出
- 6 議題

- (1) 2019年度版(2018年度実績)狭山市環境レポートについて(公開)
- (2) 環境対策の状況について(公開)
- (3) その他(公開)

〈質疑応答・意見〉

- (1) 2019年度版(2018年度実績)狭山市環境レポートについて

委員	市民参加で管理している雑木林は数を指標としているが、質の向上について、市としてはどのような雑木林の姿を描いているのか。
説明者	市民の皆さまのご協力により雑木林の保全活動をしていただくことで質が向上するものと考えている。活動団体により管理のやり方が変わ

るが、個別の状況により市としてもお手伝いをさせていただき、住民の方の意見も聞き管理保全していきたいと考えている。

委員 集団回収量が減っているのは、スーパーマーケットなどに行き、市が直接関与出来ない回収があると考えられる。そのような数を総合的に捉えるような政策施策はされないのか。

説明者 集団回収の回収量が年々減っている原因として考えられるのは、対象としている新聞紙、雑誌、牛乳パックなどとびん・缶の総量が、新聞、雑誌などの購読量の減少に見られるように生活様式の変化に伴って大きく減っていることである。集団回収を行っている自治会や環境団体は同じ回数を実施しているが、出される総量が減っていると聞いている。また、スーパーマーケットなどは、現在、ペットボトルや古紙・古布等も拠点回収を行っていて、車で直接運ばれている方もいるが、その量は正確に把握していない。もう一つは、集団回収登録団体数も若干減っている。小学生の人数が減り、子ども会の活動が親の負担になるということで集団回収を辞めるという団体もあるので、その分の量が減っている。ただ、集団回収を辞めた地域でも、逆に資源物の行政回収量は増えてきている所も見受けられるので、全体を総合して傾向を見て捉えていきたい。

委員 集団回収の量の目標は 2021 年となっているが今のところ変える予定はあるのか。

説明者 今回の目標は基準年の 2015 年を維持するという数値となっているが、次の計画では、今の傾向として下方修正になるかと思うが、資源物全体が大幅に減らないで維持していくように計画改定の時に考えさせていただく。

委員 直接関係はないが、台風 19 号で不老川が氾濫したということだが、前回の会議では 6 年計画で不老川の改修工事をするということを知ったので現在の状況はどのようになっているのか。

委員 不老川の付近に住んでいる。不老川は下流から改修工事が進んでいる。入曽地区では今兩岸の土地を買い上げて川幅を広くするという計画が進んでいて買い上げが行われている。来年あたりには下流から西武新宿線のところまで広がっていく話になる。今年の溢水は 15 cm くらいで 2 年前の方が多かった。堀兼地区で広い川幅改修をしたので、少し溢水の量が減ったとみている。不老川のあたりもずいぶん違っていたよ

うだ。

委員 入間川と不老川は一級河川なので埼玉県が管理しているということで、県の情報をいかにして狭山市として情報を入手することが重要だと思うので、関係ないと思わず、ぜひ情報共有をお願いしたい。今回の台風 19 号では避難者が多くて避難所を急遽 2 箇所追加したということを知っている。平成 28 年に発行している防災マップの避難所では足りないのかなと感じているので、ハザードマップを見直した方がいいと思っている。

委員 環境保全への主体的参加の項目の達成について、施策の環境学習の推進、環境保全活動への参加機会の提供、自主的活動への支援の成果はどれも成果数値が上がっていて、中には目標を達成し、とても頑張っているし進んでいると感じられる。数字だけでなくもう少し具体的な状況を知りたい。

委員 一部の公民館の環境講座では、資源循環推進課の方にも狭山市の現況を話してもらい、NPO の市民団体が具体的にどうやってごみが減量できるかなどを市と協働して開催している。全公民館で開催していないが、環境問題のみを開催すると集まりが悪いという定評があるが、市民大学や高齢者対象の寿大学のように年間 10 回の講座の中に組み込んでもらっているので、毎回 50 人、60 人と参加し意見を交換している。子育て中の若い家庭に浸透しないのが問題であるが、参加者数が多いのはそのような理由もあると思う。

委員 市と市民団体が一緒になってやるというのは良いモデルだと思う。どんどん推進して行ってもらいたい。

委員 再生可能エネルギーによる CO₂削減量は昨年もデータが出ないという状況だったが、今後はどうするのか。

説明者 指標を決定した時は情報提供がされていたが、電力自由化により算出することができなくなり数字を掲載していない。指標は第 2 次環境基本計画改定版に示されているものを記載しているので、目標年度まではこのままになる。第 3 次環境基本計画では別の指標を示したい。

(2) 環境対策の状況について

委員 水質事故の時のオイルマットはその後どのように処分しているのか。

説明者 最終的にオイルマットを回収し、油を吸っているので可燃物として焼却処分している。

委員 水質事故の魚が死んだ被害は油が原因なのか。

説明者 原因は分からなかった。死んでいる魚を回収している最中に泳いでいる魚もいた。簡易検査を実施したが、毒物は検出されなかった。畑が近かったので農薬が流れた可能性もあったが、最終的には不明である。

委員 不妊・去勢手術を行った猫の耳カットについては、他に方法はないのか。

説明者 猫の耳のカットについては全国的に認識された形である。特定の地域だけ違っていても分かりづらいので、「さくらねこ」いう耳のカットを行っている。

委員 アライグマの農業被害と同じくハクビシンやタヌキなどの動物による被害も多い。その場合の駆除はどのような方法があるのか。

説明者 ハクビシンやタヌキは有害鳥獣捕獲の枠組みで捕獲が可能になる。それには狩猟免許を持つ者の申請が必要となるので、一般的には駆除の業者に依頼をすると、その業者が市町村に捕獲許可申請を行い、許可を受けて捕獲する。その場合の費用は個人負担になる。

委員 外来生物で脅威に感じているのが、桜の木を倒してしまうクビアカツヤカミキリが埼玉県北部や東部で多発している。狭山市にも近づいて来る可能性もあるので、いかにして防ぐかが今後の重要な課題である。桜の中に卵を産んで木の中で幼虫が育ち、幹を食べ腐って全滅してしまう。段々増えている状況にあると思う。

(3) その他

委員 燃やすごみ減量大作戦プロジェクトの報告では、市民が生ごみの分別を分かるようになって、一世帯あたりのごみの分量が減っているとプラスのことが書かれているが、生ごみは年間 151 トンが集められ堆肥化しているが、それは狭山市全体のわずか 1 パーセントから 2 パーセント弱の生ごみであり、有機資源の減量とリサイクルにこれからも力を入れていきたいということは、あと 99 パーセントのことをいかにするかということで、現状は良い方向にいてないと感じている。今後どのような形で生ごみを資源にしていくかである。狭山市は生ごみバ

ケツを使っているが、それには市民が一時は 2,500 円を払い、後で補助金が戻ってくるという資源化したい市民がお金を持って待つという現状である。ごみを燃やしているということは、温暖化のこと、CO₂の排出、食品ロスも大いに関係があり、暮らし方の問題であることを感じる。行政がやっているかということではなくて一人ひとりの意識の問題となると、一般市民のレベルアップするための啓発をどうしたら良いかを審議出来たらと思う。環境講座はたくさんやっているが、子育て中の忙しい人には声も届かないが、ごみの分別に関しては、公民館にも行けない、ネットも開設出来ない人に各家庭に配られるごみの分別の方法の紙面は、もう少し生ごみを活かすこと、資源ごみを活かすことに通じる一番身近な問題と感じている。環境レポートを読んでみんなの手で進めるためには、市と市民団体と一市民が協力しないと出来ないと思うが、現場ではどう考えているか。

説明者

生ごみリサイクル事業は、もやすごみの中の有機資源をどのようにして減らしていくかということで、狭山市としては平成 14 年から家庭系の生ごみリサイクル事業ということで専用のバケツを使い始めた。全国的にも珍しい取り組みだが、普通のもやすごみとは別に集めたものを市内の堆肥加工工場でリサイクルするという優れたシステムだが、残念ながら参加世帯が伸び悩んでいる。市もなんとか広めたいと市民団体等と色々な啓発をしている。今年度はイベント時に展示し販売を行い 2、3 個ずつ販売したが、やはり数は伸び悩んでいる。実際に参加している世帯でも、高齢化等による生活様式の変化に伴って調理済みのものやカット野菜を買うなど家庭の調理離れが進んでいてバケツに入れる生ごみの排出量は昔ほど多くないという話を聞くが、リサイクル事業での回収減少を食い止めたいと考えているので今後も生ごみリサイクル事業を進めていきたい。他にも生ごみを資源としてリサイクルしたいというところでは、コンポスターを使って庭や畑でリサイクルする方には容器購入費の補助を行い、学校給食センターでも食品残さをリサイクルしている。また家庭での電気式の生ごみ処理機の購入費の補助もしている。バケツ以外の方法も含めて生ごみのリサイクルを今後も進めていきたいと考えている。また、稲荷山環境センターでは蒸気を使った発電を行っているが、全国的にはいくつかの自治体で建て替えにあわせて集めた生ごみをバイオマスガス発電に利用しているところもある。将来的に建て替えの時には検討していきたいと考えているが、今の体制では家庭系生ごみリサイクル事業を啓発し進めていきたいのでご協力いただきたい。

委員 環境レポートの中に、家庭系ごみの排出量の減少と事業系ごみの排出量の減少が書かれているが、明らかに事業系ごみの排出量の方が減っていて、すでに目標を達成している状況である。法人では例えばペーパーレスで会議をやったり、コピーを両面や4分割でとったりと、ごみとして排出する紙の使用をかなり削減しようとしてやっているのがこのようなところに表れていると思う。各家庭で目標を決めるのは難しいかもしれないが、法人として何かを減らそうとするには明確な目標出して取り組むと少し結果が出てくると思う。

委員 今年の水質異常では大きな油の事故があり、入間市の方で大量に廃油が流れ出て、狭山市にも一緒に対応をしてもらった。事故の原因者が2日間3日間と夜中も川に出してしまった油を回収する作業をし、できる限り下流に流さない対応をしてもらった。やはり、環境に影響を与えることというのはまず未然防止が大事というのが基本である。大気にしても煙を出さない、油の事故は川に流さない、アライグマはもう世間にたくさんいて殺処分するしかないが、セアカゴケグモやヒアリはまだ少ない状態で対応できるので何事につけても未然防止が大切であると思っている。未然防止をするには市民の方が見ていただき、異常に気付いていただき、それを行政に伝えれば対応が出来ると思っているので市民の方のご協力をお願いしたい。

委員 事業活動をしていく中では先ずは出さないというところが一番意識しなければならないと思っている。水質に関しては処理場を持っているが、処理場のキャパシティを超えるものが現場から流れてくると止めようがないので、現場と処理場の意思疎通を図り、当然モニタリングもしながら発生源となるものを出さないというのを心がけて活動をしている。どうしても地球に負担が掛かることになっているが、とにかく負担を最小限にして最後は製品だけを出してそれ以外のものは出さないというのをコンセプトにして環境活動をしている。CO₂を抑える活動の新しい観点としては、毎日の毎時間のエネルギーのモニタリングとか見える化のようなことをして全部門に発信し、その変化を見て気が付いたら早く活動し、さらに無駄を止めるという活動をしている。家庭にも電気のモニターをつけられるというものが製品として出ているので、個人の自宅にもつけると無駄が見えて電気代の節約になるのかと思う。

会議資料

(配布資料)

- 狭山市環境審議会委員名簿
- 環境経済部等職員名簿
- 狭山市環境審議会規則
- 環境対策の状況について

(手持ち資料)

- 第2次狭山市環境基本計画 改定版
- 2019年度版 狭山市環境レポート